

第3期教育大綱の方向性について

第3期むつ市教育大綱の基本方針と重点項目（案）

第2期の成果と課題、そして第3期へ

「基盤整備」から「実効性と成果」へ — 第3期教育大綱の戦略的視点

PERIOD 2 ACHIEVEMENTS

第2期 成果

基盤整備が大きく前進

- 1 教育施策の基盤整備**
ICT環境、学校運営協議会、不登校支援、特別支援教育、地域クラブ活動の土台が整備
- 2 大学・専門機関との連携拡大**
弘前大学、青森大学、放送大学、東京藝術大学、青森県医師会等と多面的連携を構築
- 3 地域資源を活用した教育の進展**
ジオパーク学習、防災学習、キャリア教育、文化財活用事業に着手
- 4 多様な学びの場づくりを始動**
教育支援センター、メタバース、スクールサポーター、特支推進委員会で対応拡大
- 5 部活動地域移行を全国に先駆け前進**
「むつ☆かつ」は全国的課題への先進的取組として高く評価

PERIOD 2 CHALLENGES

第2期 課題

成果指標になお課題が残存

- 1 取組が学力向上に十分結び付かず**
全国学力調査で小中ともに全国平均を下回り、特に中学校段階の学力低下が顕著
- 2 不登校児童生徒数の増加**
支援体制整備は進展も、未然防止・早期対応の強化が急務
- 3 小学生の肥満傾向の深刻化**
令和7年度肥満傾向児出現率24.40%、家庭・地域連携の生活習慣改善が急務
- 4 ICT活用に学校間・教員間の差**
デジタル教材利用率（小73.2%／中49.1%）、中学校での活用促進が必要
- 5 地域連携の実質化が課題**
学校運営協議会は全校設置済み、熟議内容を教育活動への反映が次の段階

PERIOD 3 DIRECTION

第3期 方向性

仕組みを活用し成果を出す段階へ

- 1 学力向上を最重要課題に位置付け**
データに基づく授業改善、ICTの効果的活用、学び直し支援の徹底
- 2 不登校・特別支援・心の支援の一体的推進**
教育支援センター、メタバース、スクールサポーターで学び続けられる環境
- 3 健康・体力づくりを家庭・地域と連携**
学校・家庭・地域が一体となり生活習慣改善に取り組む
- 4 地域とともにある学校の実質化**
CSを会議体に留めず、学校運営や教育活動の改善へ直接接続
- 5 生涯学習と地域人材育成の強化**
公民館・図書館・大学・地域団体と連携し、将来を見据えた教育活動を推進する

第3期 KEY MESSAGE

基盤整備



実効性 と 成果

子ども一人ひとりが自分の足で未来へ歩み出し、
主体的に学ぶ教育へ発展

教育方針（案） 「逞しさ 柔らかさ 奥深さ」

■ 逞しさ（たくましさ）

芯がぶれない力強さ＝確かな学力の定着

▶ 「**主体性**」…自ら考え、判断し、行動する力

■ 柔らかさ（やわらかさ）

人としての優しさ・柔軟性＝多様性の包摂

▶ 「**つながり**」…他者と共に学び支え合う力

■ 奥深さ（おくぶかさ）

懐の深さ・思慮深さ・探究心＝深い学びの実装

▶ 「**当事者意識**」…地域を自分ごととして探究する力

教育方針 提案理由 — 「自分の足で未来へ歩み出す力」を育てる

第3期教育大綱は、「**むつ市こどもの笑顔まんなか条例**」（令和6年）の理念を礎とし、**こどもを権利の主体**として尊重し、自分らしく健やかに成長できる教育を実現します。中核に据えるのは「**こどもたちが自分の足で未来へ歩み出す力**」の育成。第2期で整備した基盤（ICT環境・学校運営協議会・地域連携・むつ☆かつ・大学連携・多様な学びの場）を最大限に活用し、「**基盤整備**」から「**実効性と成果**」へと進化させます。

「逞しさ」には自ら考え判断し行動する**主体性**を、「柔らかさ」には多様性を受け止め他者とつながる**協働性**を、「奥深さ」には地域を自分ごととして捉える**当事者意識**を含め、こどもの意見を尊重し、夢と希望をもって未来へ羽ばたく力を育みます。3つの方針を一体的に推進し、全国学力調査の改善、不登校・特別支援の一体推進、地域とともにある学校の実質化を達成、こども一人ひとりが**笑顔**で自分の足で未来へ歩み出す教育を実現します。

重点項目 1 主体的に未来を切り拓く人づくり

「主体性」の具現化 — 自分の足で未来へ歩み出す力の基盤づくり

提案理由

「**こどもが自分の足で未来へ歩み出す力**」を育てるため、主体性を育む取組を強化します。第2期で進展した1人1台端末・ICT環境を成果につなげ、全国学力調査で全国平均を下回る状況を改善。地域密着型体験から一歩進め、第一線で活躍するプロとの出会いで「自分には無理」という**可能性認識格差**を解消します。

※ 学力・意欲・心身・道徳性を一体的に育み、未来へ歩み出す基盤を作ります。

① 確かな学力の定着と学習意欲向上 — 学力向上を最重要課題に

全国学力調査で全国平均を下回る現状を真摯に受け止め、データに基づく授業改善、ICTを活用した個別最適な学び、学び直し支援を徹底。第2期で整備した1人1台端末を成果につなげ、自分で学ぶ力を育みます。

② キャリア教育の充実 — 「可能性認識格差」の解消

地元密着体験に加え、第一線のプロや多様な大人・世界に触れる「ストレッチ型」機会を拡充。「自分には無理」という想定範囲内に閉じた視野を打破し、こどもが自らの可能性を主体的に見出せる**選択肢の保障**により可能性認識格差を解消します。

③ 健やかな心身・豊かな人間性・グローバル視点

小学生肥満傾向（令和7年度24.40%）の改善を家庭・地域連携で推進。異文化理解・外国語教育に加え、自立した人間として他者と共によりよく生きる道徳性を育み、多様な社会を生きる基盤を整えます。

重点項目 2 誰一人取り残さないきめ細かな教育

教育方針「柔らかさ」の具現化に向けた取組

提案理由

こどもたちを取り巻く環境が多様化する中、一人ひとりの違いや状況を受け止め、柔軟に支え、安心して学び自分らしく成長できる教育環境の構築（柔らかさ）が必要です。知・徳・体の調和を図るため、学校生活の中での基本的な生活指導から不登校児童生徒への個別の寄り添い、いじめ防止までを組織的かつ網羅的に展開します。

※ 一人ひとりに応じたきめ細やかな教育環境を整えます。

① 基本的生活習慣の定着ときめ細かな指導

日々の学校生活の中で基本的な生活習慣の定着を図り、能力や適性に応じたきめ細かな個別指導を実践することで、落ち着いて学びに向かう確固たる基盤を整えます。

② 幼保小連携の充実と小中一貫教育の推進

集団生活への適応課題に対応するため幼保小連携を強化し円滑な接続を確立。義務教育9年間を見通した連続性・系統性のある教育で、こどもがひとりで成長していく人格形成と学力定着を切れ目なく支えます。

③ 不登校・特別支援・心の支援の一体的推進

増加する不登校児童生徒に対し、第2期で始動したメタバース学習や「学びの多様化学校」の開設（R8）により学びの場を拡充。いじめについては見守りと教育相談で未然防止・早期発見・早期対応を徹底します。

重点項目 3 こどもの学びを支える教育環境の充実

「通いたくなる学校」「学びたくなる環境」でこどもの主体性を支える

提案理由

こどもが「自分の足で未来へ歩み出す」ためには、それを支える「**学びのデザイン**」が不可欠です。一方的な伝達ではなく、こどもが主体的に学ぶプロセスを設計します。第2期で整備した**1人1台端末・ICT環境**（使用率小73.2%/中49.1%）を成果につなげ、教員間・学校間の活用格差を解消。教員が子どもと向き合う時間の拡充を図ります。

※ 「教える場」から「学びをデザインする場」へと転換します。

① 「通いたくなる学校」を支える安全安心な学校施設

こどもが安心して通い、主体的に学べるよう、「通いたくなる学校」「学びたくなる環境」を軸に学校施設全体の機能充実と安全安心な環境整備を推進します。

② ICTを活用した「個別最適・主体的な学び」

GIGAスクール環境を発展させ、一人ひとりの興味関心・理解度に応じた「個別最適な学び」を推進し、こどもが自ら調べ、考え、表現する主体的な学びを実現。教員のICT活用力と指導スキル向上を図り授業改善を進めます。

③ 「学びの専門職」としての教員を支える校務改善

多様化・複雑化する学校業務を見直し、校務改善を徹底。教員が児童生徒理解や授業づくり、個別の丁寧な支援に全力を注ぐことができる環境をつくり、こども一人ひとりと向き合う時間の拡充を図ります。

重点項目 4 未来へつなぐ学びの推進と地域づくり

「当事者意識」の具現化 — ふるさとを自分ごととして捉える人を育む

提案理由

こどもが「自分の足で未来へ歩み出す」ためには、その足元を支える**ふるさとへの誇りと当事者意識**が根幹となります。人生100年時代、全世代が主体的に学び続ける仕組みを整えます。第2期で全校設置された**学校運営協議会**を会議体に留めず教育活動の改善へ接続。文化財・地域資源を探究・語り手の育成を通じて、こども達が地域を「自分ごと」として捉える力を育みます。

※ 「地域とともにある学校」の実質化と生涯学習・地域人材育成の強化を一体推進します。

① 生涯学習と地域人材育成の強化

全世代が「自ら気づき、学び、実践する」生涯学習を整備。公民館・図書館・大学・地域団体と連携し、こどもから大人までが学び続け、地域づくりに関わる**当事者**として成長する仕組みを整えます。

② 地域とともにある学校の実質化（学校・地域・家庭）

第2期で全校設置された**コミュニティ・スクール**を根底とし、熟議内容を学校運営・教育活動の改善へ接続。こどもが多様な大人と出会い、自分ごととして地域を捉える体験を拡充します。

③ 文化財の保護と活用を通じ、ふるさとへの「当事者意識」を醸成

市内の文化財を適切に保護・継承し、**下北ジオパーク・伝統行事・防災学習**と一体的に学習資源・地域振興資源として活用。地域課題を探究し、こどもが未来の創り手となる郷土愛を育みます。